

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（教育学）	氏名	中西裕也
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目			
防災・資源に関する地学カリキュラムの理論的・実証的研究			
論文審査担当者			
主査教授 磯崎 哲夫			
審査委員 教授 竹下 俊治			
審査委員 教授 由井 義通			
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、わが国の中学校及び高等学校（戦前においては旧制中学校）における地学教育における防災・資源教育を対象とし、理論的研究と実践的研究を通して、防災・資源教育の目的、内容、方法について論究したものである。</p> <p>論文構成は、次の通りである。</p> <p>序章では、研究の背景と問題の所在、目的と方法、防災教育や資源教育の用語の定義などについて論じている。</p> <p>第1章は理論的研究であり、防災に関する社会的背景と地学教育における防災に関する学習について分析を行っている。その結果、第二次世界大戦前の旧制中学校では、主として防災教育の有する文化的・教養的価値と実用的・功利的価値が重視されていたことを明らかにしている。第二次大戦後の中学校及び高等学校においては、学習指導要領や教科書、理科教育系雑誌のいずれにも防災教育の有する価値観が記載されておらず、甚大な自然災害が発生すると理科教育系雑誌において、防災教育の実用的・功利的価値の重要性が述べられていたことを明らかにしている。</p> <p>第2章も理論的研究であり、資源に関する社会的背景と地学教育における資源に関する学習について分析を行っている。その結果、第二次世界大戦前の旧制中学校では、時代により資源教育の有する異なる価値観が重視されてはいたが、文化的・教養的価値については一貫して重視されていたことを明らかにしている。第二次世界大戦後の中学校及び高等学校の地学教育における資源教育は、敗戦後は文化的・教養的価値と実用的・功利的価値が重視されていたけれども、次第に中学校及び高等学校の学習指導要領の改訂に伴い、教科書や理科教育系雑誌のいずれにおいても資源教育の有する価値観が記載されなくなったことを明らかにしている。</p> <p>第3章は、第1章、第2章での論究を踏まえた実践的研究である。実践研究では、まず防災・資源教育における文脈を基盤としたアプローチを用いる意義について検討している。次に、高等学校の地学教育を対象とした防災・資源教育に関する単元開発を行っている。そして、開発した単元の実践を実施し、その効果について検証している。その結果、防災・資源に関する現実の社会的問題に対し、違う立場の人と理科の見方・考え方や証拠</p>			

に基づき議論することで、科学についての知識の必要性の認識と災害に備える態度の育成に寄与することが可能であることを指摘している。

終章では、結論として、防災・資源教育においては、実用的・功利的価値、文化的・教養的価値、経済的・国家的価値、民主主義的価値のいずれも重要であり、適切に組み合わせられる必要があるけれども、現代社会においては、より文化的・教養的価値が重視されることを主張している。また、防災・資源に関する学習においては、防災・資源教育の学びの文脈とその価値観を考慮して、適切に文脈を基盤としたアプローチを用いることで、防災・資源教育に関して生徒の理解を促すことが可能であることを指摘している。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 本研究は、防災・資源教育に関して、数多くの資料を分析することで、歴史的変遷を明らかにし、防災・資源教育の特色と課題について論究している点である。
2. 本研究は、理論的研究を中心としながらも、その理論的知見を基にして、実践的研究として防災に関する単元開発とその試行的実践を行っている点である。
3. 以上の理論的研究と実践的研究の往還により得られた知見に基づき、理科教育における防災・資源教育の在り方に関する1つの方向性を示している点である。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 6年 2月15日